

# 蔵王町の環境と歴史

## 1. 蔵王町の位置と自然環境

### (1) 地形・地質

蔵王町は宮城県南西部にあり、奥羽山脈に連なる蔵王連峰の東麓に位置する（第1・2図）。町域は東西23km、南北13kmで面積は152.85km<sup>2</sup>を占め、海拔標高は最高点が西端の屏風岳で1,825m、最低点が南東部の松川と白石川の合流点で20mを測る。

町域の6割を山林原野が占めており、西部は高原・山岳地帯、東部は平野・丘陵地帯である。西部は蔵王火山の活動による溶岩台地が発達し、火砕流堆積物からなる扇状地地形も見られる。東部の松川流域には盆地や段丘群が形成されており、沖積平野での稲作と丘陵部での果樹栽培が盛んである。

蔵王連峰は、火口湖（御釜）・渓谷・湿原など変化に富んだ地形を擁し、高山植物をはじめとする多様な動植物が生息・生育する。蔵王国定公園・蔵王高原国立自然公園の指定地域となっているほか、成層火山群の活火山である蔵王火山は地質学的に貴重なフィールド

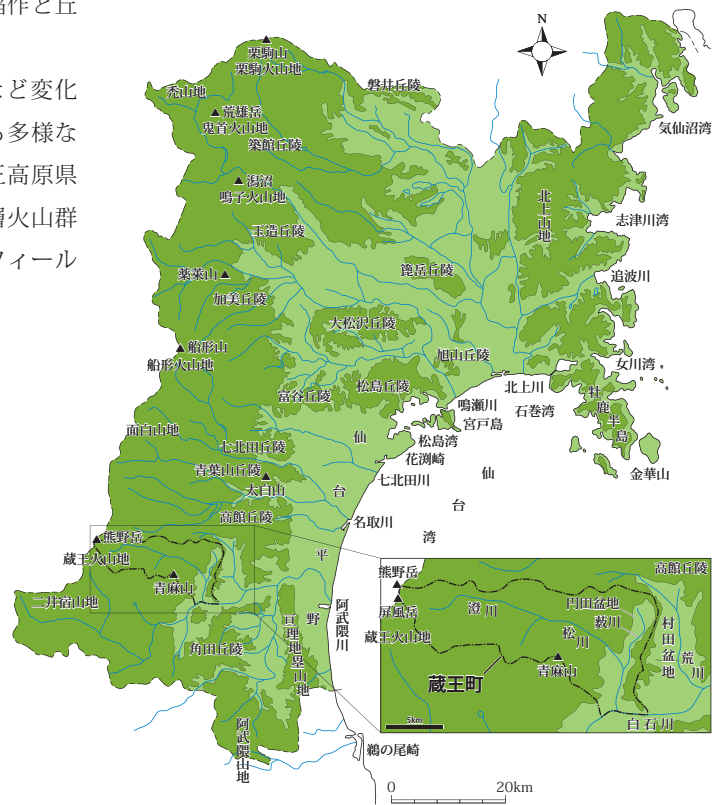
ドとして「日本の地質百選」に選定されている。

蔵王連峰から東流する松川は、独立峰をなす青麻山の東麓で流路を南へ向けて白石川に注ぐ。町域の東部では2～3段のやや広い段丘面を形成し、北東部では支流の藪川流域に円田盆地を擁する（第6図）。

円田盆地は東西1.2km、南北3.5kmの底面を持ち、南を除く三方を丘陵で画されている。盆地北側から西側にかけては高木丘陵、東側は愛宕山丘陵と通称されている。盆地内を蛇行しつつ南流する藪川は自然堤防が未発達で、流域に湿地帯を形成している。



第1図 蔵王町の位置



第2図 蔵王町と周辺の地形

### (2) 気候

宮城県地方の気候区分は、全体としては温帯湿潤気候に属する。温帯湿潤気候では、平均気温が最寒月でマイナス3度以上、最暖月で22度以上で四季の変化が明瞭であり、夏に高温多雨となる。宮城県地方はこうした気候の北限に近く、海拔標高が500mを越すと、最寒月の平均気温はマイナス3度以下となり、亜寒帯気候の様相を帯びる。夏季の平均気温は最暖月の8月で25度前後のところが多い。降水量は、年間の平

均値が仙台で1,392ミリ、西部山地で2,000ミリ前後である。積雪日数は、海岸部で30日以下、中央部で50日程度、西部山間部では90日以上に及ぶ。

県南部では、沿岸部は海洋性気候の影響が強く、年較差、日較差ともに小さい。夏季は冷涼、冬季は緯度の割には温暖であり、福島県浜通りの気候の延長線上にある。一方、蔵王町を含む西部内陸方面は福島県中通りの気候の延長線上にあり、より寒冷で積雪も多く、豪雪地帯に指定されている。

### (3) 動植物相

町域の東部は古くから人間活動の場として開発され、青麻山以东の平野・丘陵地帯を中心に水田・畑地などの農耕地が開けている。丘陵地帯では、かつては薪炭材などとして盛んに利用され、萌芽再生によって維持された里山の雑木林に特有のコナラ・クリ林が優勢であった（第3図）。現在はこれらの伐採が進んでスギ・ヒノキ・アカマツが植林されたり、果樹園が開かれてモザイク状の分布を形成している。

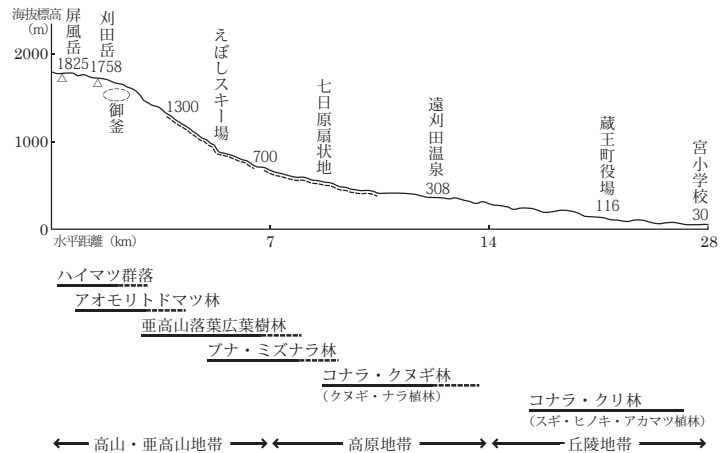
高原地帯も遠刈田温泉から七日原にかけてはコナラ・クヌギ林が優勢であったが、伐採が進んで草原となった後は厳しい気象条件により植生が回復せず、クヌギ・ナラなどの植林が行なわれている。烏帽子岳中腹にかけては冷温帯落葉広葉樹林の山地帯で、広大なブナ・ミズナラ林が形成されている。

西部の亜高山帯では、常緑針葉樹林のアオモリトドマツ林が広大な森林を形成している。屏風岳東面の断崖には亜高山落葉広葉樹林が分布する。

さらに高度を増した高山帯では高木の生育は見られず、ハイマツ低木林が分布する。山

頂付近は火山荒原となり、ガンコウラン・イワカガミなどの高山植物がカーペット状の群落を形成し、砂礫地にはコマクサも見られる。

こうした森林地帯の植物相を背景として、町内には大型獣のニホンツキノワグマ・ニホンカモシカ、中小型獣のホンダタヌキ・ホンダギツネ・トウホクノウサギ・ホンドリス・ホンドイタチ・オコジョ・ムササビ・ネズミ類・モグラ・ヤマネ・コウモリ類などの哺乳動物をはじめとする多様な動物が生息している。



第3図 蔵王町の東西模式断面と植生の垂直分布

## 2. 蔵王町の歴史的環境

### (1) 歴史的環境

蔵王町と七ヶ宿町からなる刈田郡は、かつては白石市を含む宮城県南西部の広い地域を占めていた。この刈田・白石地方の地形が作りだす景観について「刈田郡誌」では「郡下至るところ連丘連山起伏し、谿谷溪流を見る。この一圓の水を聚めて阿武隈川に運ぶもの即ち水清く、石白き白石川にして、其本流支流に沿って、管内各村を往訪すべき諸道開けたり…」と記している（刈田郡教育会 1928）。

蔵王東麓の広大な山地・丘陵と、これを隈なく開析する大小の河川は、多種多様な動植物を生息・生育させ、先史時代には人類の豊かな生活基盤となっていたことが濃密な遺跡分布から窺える。このような複雑な地形環境から、歴史時代には軍事上の要衝地域として数多くの城館が構築され、しばしば戦乱の舞台ともなったが、一方で土着の耕作者にとっては耕地が狭小である上に低地は洪水の常襲地帯で、時折集落や耕地の流失もあり、交通の難所でもあった。

刈田郡に関する最古の記録は、「続日本紀」に記された養老5年（721年）の陸奥国刈田郡建置に関する

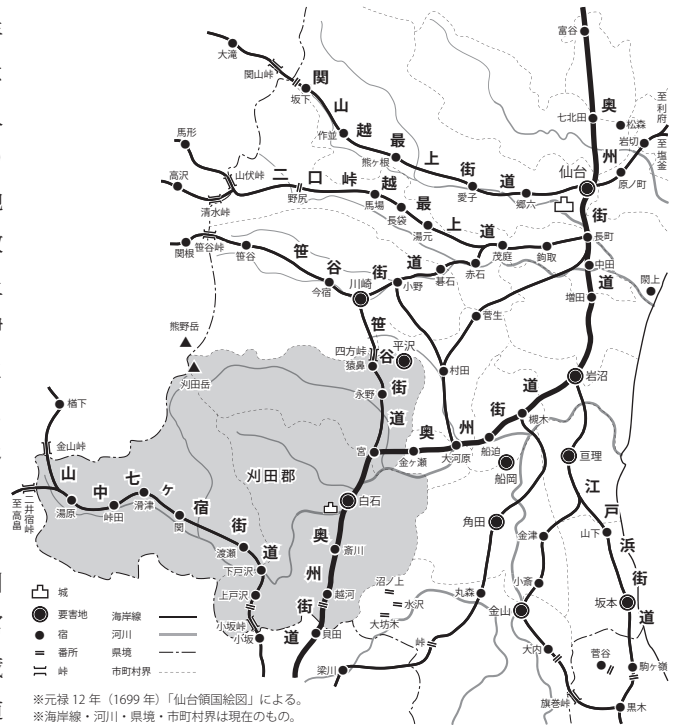
記事である。これによると刈田郡は柴田郡のうち二郷を分割して設置され、仙南地方では最も遅い建郡であった。陸奥国は7世紀半ばに亘理・伊具地方を北辺として成立し、7世紀後半頃には大崎平野周辺までその範囲を広げていたと考えられている。このため、柴田・刈田郡周辺は陸奥国成立後の早い段階で律令政府の安定した統治下に置かれていたであろう。

平安時代末期には奥州藤原氏の支配下にあったとみられ、丈六阿弥陀如来坐像を安置する阿弥陀堂が建立された。また、奥州合戦について「吾妻鏡」の伝えるところでは、文治5年（1189年）に藤原泰衡軍は刈田郡根無藤（蔵王町円田）に城郭を構え、四方坂（同平沢）との間で源頼朝軍と進退七度に及ぶ戦いの末に敗退したという。このことから、この地域が軍事上重要視されており、根無藤から四方坂を経る道筋が、出羽国へ至る出羽道の一部であったことが窺える。

鎌倉時代以降は白石氏（刈田氏）が刈田郡の中心勢力であった。白石氏は南隣の伊達郡を本拠とする伊達氏との関係が深く、戦国時代には伊達氏の傘下に組み込まれた。天正18年（1590年）に豊臣秀吉による

奥州仕置で刈田郡は伊達領と確定されたものの、翌年の再仕置で伊達政宗が岩出山城へ移封され、刈田郡は長井・信夫・伊達などの各郡とともに会津黒川城に入封した蒲生氏郷に与えられた。慶長3年（1598年）には蒲生氏に代わって会津に入封した上杉景勝の領地となり、家臣甘粕備後景継が白石城主となったが、政宗は慶長5年（1600年）に徳川家康の意を受けて上杉氏を抑えるため白石城を攻めて奪還し、刈田郡は伊達氏の所領となった。政宗は慶長7年（1602年）に重臣・片倉景綱を白石城主とし、西南の固めを任せた。以後は代々片倉氏が白石城主を務め、江戸時代を通じて刈田郡の過半は片倉氏の知行地であった。

江戸時代には奥羽山脈を挟んで陸奥国を奥州街道、出羽国を羽州街道が縦貫しており、刈田郡内にも奥州街道が白石城下を通過していた。また、奥州街道の宮宿（蔵王町宮）から分岐して永野宿・猿鼻宿・四方峠（蔵王町円田）を經由し、笹谷峠を越えて山形の羽州街道へ抜ける笹谷街道も設けられていた（第4図）。



第4図 刈田郡周辺の街道（風間 1983 原図）

※上記の「蔵王町の環境と歴史」1および2については、蔵王町文化財調査報告書第21集（蔵王町教育委員会 2016）より転載した。

### 3. 自然保護区域・指定文化財等

#### (1) 自然保護区域

##### 蔵王国定公園

地域 宮城県仙台市・白石市・蔵王町・七ヶ宿町・川崎町、山形県山形市・上市市  
面積 39,635ha（うち蔵王町分 5,010ha）  
創立日 昭和38年（1963年）8月8日

##### 蔵王高原県立自然公園

地域 宮城県白石市・蔵王町・七ヶ宿町・川崎町  
面積 20,606ha（うち蔵王町分 4,283ha）  
創立日 昭和22年（1947年）2月21日

#### (2) 指定文化財

##### 国指定文化財

特別天然記念物 カモシカ（南奥羽山系カモシカ保護地域）  
建造物 我妻家住宅主屋・文庫蔵・前蔵・板蔵  
附 穀蔵・表門・宅地・万年記

##### 県指定文化財

建造物 刈田嶺神社本殿  
美術工芸品 丈六阿弥陀如来坐像（保昌寺）  
天然記念物 平沢弥陀の杉 附 戒石銘

##### 町指定文化財

建造物 刈田嶺神社拝殿・隨身門  
奥平家住宅

美術工芸品 刀剣 太刀（刈田嶺神社）  
工芸品 三尊堂舎（清立寺）  
古文書 高野家文書（261冊）  
考古資料 願行寺遺跡出土土偶  
歴史資料 高野倫兼遺訓碑  
小野訓導映画フィルム

無形民俗文化財 民俗芸能 八雲神社神楽  
榊流東根神楽  
小村崎榊流法印神楽  
平沢榊流神楽  
白山神社神楽  
刈田嶺神社神楽  
小村崎春駒  
小村崎田植踊

有形民俗文化財 信 仰 白鳥古碑群（5基）  
刈田嶺神社絵馬（21点）  
敬明講図（絵馬）  
達磨講石造物（3基）

史 跡 白九頭龍古墳  
岩崎山金窟址  
遠刈田製鉄所高炉跡  
曲竹一里塚 附 古碑群  
安養寺参道跡保存地区



### (3) その他

新日本観光地百選（毎日新聞主催）

蔵王山（1950年）

日本百名山（深田久弥著）

蔵王山（1964年）

新日本観光地百選（読売新聞主催）

宮城蔵王（1987年）

日本の滝百選（選考委員会選定、環境省・林野庁後援）

三階滝（1990年）

美しい日本のむら景観百選（農林水産省主催）

蔵王町（1991年）

森の巨人たち百選（林野庁主催）

えぼし千年杉（2000年）

平成百景（読売新聞主催）

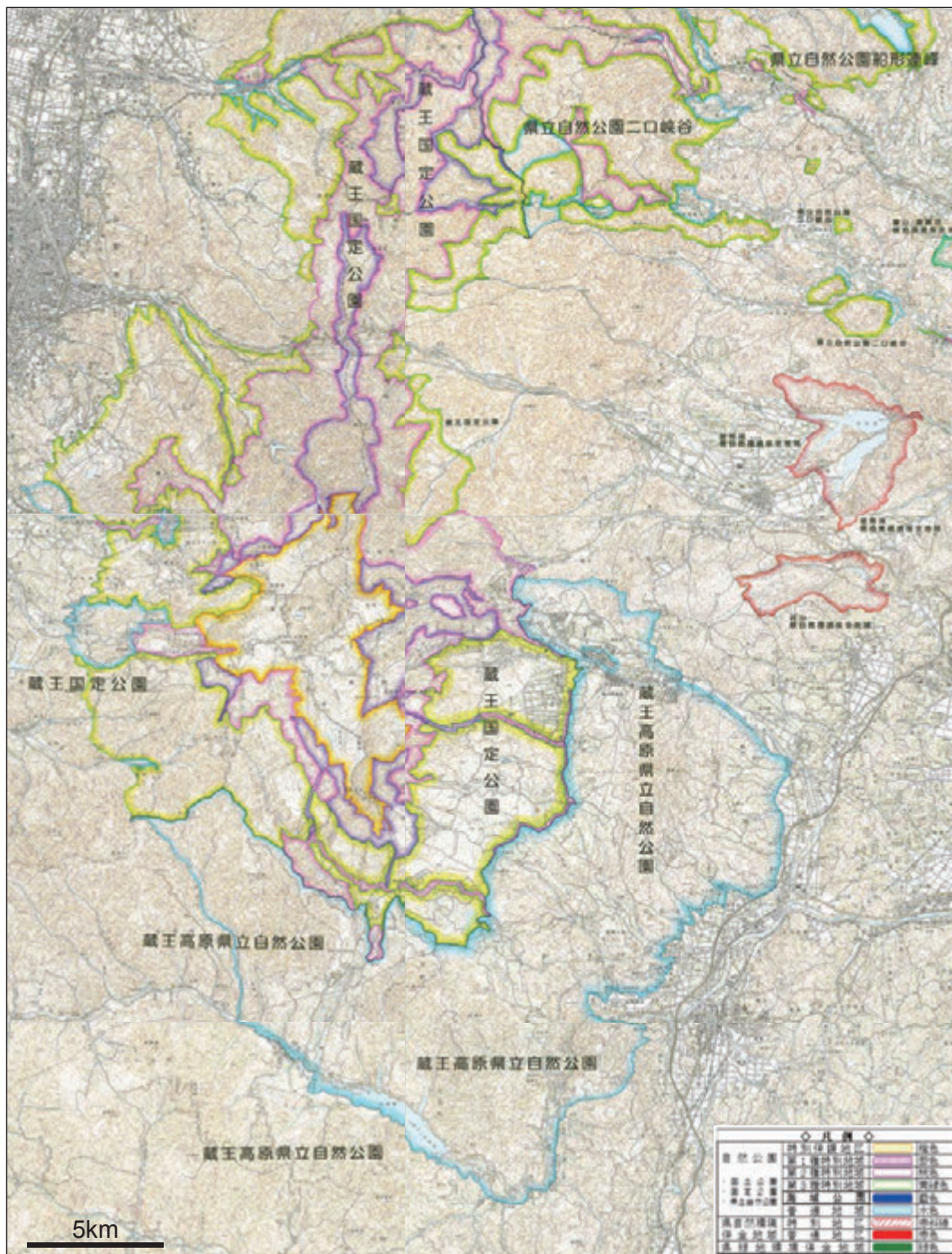
蔵王（2009年）

日本の地質百選（選定委員会選定）

蔵王火山（2007年）

土木学会選奨土木遺産（土木学会主催）

疣岩分水工（2012年）



自然保護区域図（宮城県自然保護課 作成）